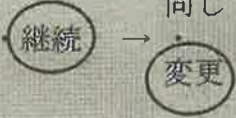



目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
<p>①市内相談支援事業所における相談支援専門員の人数を増やす</p> <p>②相談先の周知</p> <p>③虐待の防止</p> <p>④小牧市自立支援協議会の充実 ☆</p>	<p>◇相談支援事業所連絡会開催 (5月・8月・11月・2月)</p> <p>・困難ケース共有・検討</p> <p>・社会資源等の情報共有</p>	<p>P. 37 P. 38 P. 46 P. 47 (2)</p>	<p>Ⓐ第1回相談支援事業所連絡会 5月21日開催 【参加者20名】</p> <p>Ⓑ第2回相談支援事業所連絡会8月20日開催 【参加者17名】</p> <p>Ⓒ第3回相談支援事業所連絡会11月19日開催 【参加者19名】</p> <p>Ⓓ第4回相談支援事業所連絡会2月18日開催 【参加者20名】</p>	<p>Ⓐ児の施設入所について、スムーズな入所への繋ぎ方について検討し、フローチャート作成に繋げることができた。</p> <p>Ⓑ不登校児童の居場所を資料として配布したことで、新たな社会資源等の周知することができた。</p> <p>Ⓒ市内相談支援事業所における相談支援専門員の人数を増やすための勉強会を行った。(相談支援専門員初任者研修フォローアップ研修)計画作成を行う上で、「いろんな目線で意見を聞くことができた」という意見があり、今後の計画作成に活かすことができた。</p>	<p>終了・継続・変更 (※)</p> <p>終了 ・ 継続 → 同じ変更</p>	<p>相談支援事業所連絡会を年4回継続して行っていくことで、相談支援専門員がそれぞれ抱えている課題を皆で考えていくことができる。</p> <p>事例検討会については、基幹相談支援センターの巡回訪問で相談のあった困難ケースを検討する。</p>

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
	<p>◇事業所連携による機能強化型加算の取得する事業所を増やすことで人件費にっなげていただく</p>			<p>①外国籍の方や、共働きの方が多く、連絡を取ることが難しいことや、サービス等利用計画の内容説明に苦慮していることが上がり、それぞれの工夫の仕方などを話し合うことができた。</p> <p>今年度9月より進めていく予定だったが、地域生活支援拠点の登録が必要であり、市の説明会以降に取り組むことになった。そのため加算の取得が延期となっている。 (地域生活支援拠点の登録制については要綱ができ、各事業所に発信している。)</p>	<p>終了・継続 → 同じ変更</p>	<p>今年度取り組めなかったため、来年度は事業所連携による機能強化型加算の取得に向けて進めていく。</p>
	<p>◇サービス等利用計画作成に伴う各種加算の取得状況について連絡会で確認を行う</p>			<p>②今年度より加算の請求を行っている事業所が増えていることを確認した。</p>	<p>終了・継続 → 同じ変更</p>	<p>来年度は、加算についての勉強会を行っていく</p>

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
☆続き	◇小牧市地区民生委員・児童委員連絡協議会での委託相談支援事業所の説明、障害者虐待防止法についての説明と見守りの依頼 ・6地区(小牧南部、小牧中部、小牧西部、味岡、篠岡、北里地区)	P.37 P.38 P.46 P.47 (2)	小牧市地区民生委員・児童委員連絡協議会 中部地区7月2日【参加者 37名】 西部地区7月3日【参加者 21名】 篠岡地区7月5日【参加者 42名】 南部地区7月9日【参加者 25名】 北里地区7月10日【参加者 30名】 味岡地区7月12日【参加者 43名】	6地区の民生委員・児童委員に周知することができた。	終了 	今後は、民生委員・児童委員含めた地域の方への周知を継続していく必要がある。
	◇各連絡会への相談員の参加		①こども連絡会・全体会出席 6月21日開催 2月7日開催 ②こども連絡会事業所部会出席 7月11日開催 10月22日開催 1月23日開催 ③日中活動系連絡会・就労支援連絡会合同連絡会出席 6月5日開催 6月10日開催 10月28日開催 1月28日開催	相談員支援専門員として、個別のケースから各連絡会への利用者ニーズを伝えるには至っていない。	終了 	今後も、各連会に相談員が参加し、個別のケースを通して利用者のニーズを伝えることや、連絡会からの課題を相談支援事業所連絡会でも話合えるよう進めていく。

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
①精神障がい者等の地域移行	◇委託相談支援事業所の相談員で地域移行・地域定着支援についての勉強会実施	P. 61 P. 62 (2) (4)	<p>①基幹相談支援センター主催の事例検討会に参加 7月23日開催 【参加者15名】</p> <p>②「ピアサポーターとの交流、ピアサポーターを学ぶ会」協力：ともこころのクリニック、アザレア福祉会小木真知子氏 8月20日開催 【参加者16名】</p>	<p>①地域移行、地域定着について相談支援専門員の学びの会となった。事例をとおして実際のケースを検討することができた。</p> <p>②当事者の支援者への要望や気持ちを聞く良い機会になった。</p>	<p>終了・<b>継続</b> → 同じ <b>変更</b></p>	<p>事例検討や地域で暮らす当事者の声を聞く機会を設けたことで、地域移行・地域定着支援のために相談支援員が認識すべきことを学ぶことができた。</p> <p>今後は、委託相談支援事業所と精神科病院の相談員との情報交換について検討する。</p> <p>なお、地域生活支援拠点の整備に伴う、地域移行の体験の場と機会について、相談支援専門の立場から関わりを持つようにする。</p>

(※) 次年度も同じ内容で継続、または目的を変えず方法を変えるという意味で変更

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
① ライフステージにおける切れ目のない支援	◇こども連絡会全体会 ・第4次小牧市障がい者計画の説明 ・関係機関との情報共有・意見交換	P. 34 (5) P. 42 (1)	④第1回こども連絡会全体会 6月14日開催 【参加者 21名】 内容	④ (1) 事業所での名札着用や、送迎時刻の変更連絡の徹底を行った結果、事業所側も学校側も共に連携が取れていることが分かった。 (2) 現状はすべての児童に相談支援専門員をつけることが難しく、事業所として、ケースごとに相談支援専門員が必要かどうかを検討する必要があるという意見ができた。 (3) 学校に通えない児童の居場所の周知や確認について (4) 成長記録の活用について	終了・継続・変更(※)	今後も、こども連絡会全体会の開催を年2回行い、事業所部会からの課題の把握や、課題に向けて取り組めることなどを話し合っていく。 また、関係機関との情報共有や、意見交換を行うことにより、より多くの社会資源を把握し、ライフステージに沿った切れ目のない支援に繋げていくことができる。
②あさひ学園と児童発達支援センターが協力し、地域の障害児支援の体制強化を図る	・不登校児童が通える社会資源の確認、整理 ・事業所部会から	P57 (1) P58 (2) P59 (3) P59 (6)	出た課題、行った活動の報告			
③ 関係機関の情報共有、課題整理、連携						
④サービス事業者等の質の向上						
⑤不登校児童の居場所の確保						



令和6年度 こども連絡会 第4次障がい者計画等進捗状況 令和6年9月～令和7年2月 (ページ数は第4次障がい者計画書中の記載箇所)

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
☆続き			㊸第2回こども連絡会全体会 2月7日開催 【参加者 16名】 (1) 不登校児童、保護者への社会資源の集約について (2) 情報共有の仕方について (3) 事業所による学校への送迎の困りごと	㊸ (1) 不登校児童の居場所や、保護者への相談窓口などの社会資源の情報をどのように集約していくかなどを話し合った。学校教育課のHPにアップされている、不登校児童の支援に係る相談窓口を活用していく。また、今後新たな社会資源についての掲載は、学校教育課が検討されることになった。		

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
				<p>(2) 学校と、保護者が利用しているICTツール【tetoru】が有効だが、事業所が利用するためには、有料であることが分かった。別のICTツール【こまきつながるくん】は無料なので、双方のツールの活用を事業所部会で検討する。</p> <p>(3) 送迎に関する困りごと (例. 重度の児童の送迎は、スタッフ3名乗車しなければならないなど) を共有することができた。</p>		

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
<p>☆続き</p>	<p>◇事業所部会                      ・第4次小牧市障がい者計画の説明                      ・事業所同士の情報共有・情報交換                      ・BCPについて                      ・あさひ学園・児童発達支援センター・相談支援事業所と事業所間の連携についての意見交換                      ・不登校児童の支援について                      ・事業所の困りごと、課題                      ・成長記録の周知                      ・事例検討会</p> <p>☆</p>	<p>P. 34 (5)                      P. 42 (1)                      P57 (1)                      P58 (2)                      P59 (3)                      (6)</p>	<p>①第1回こども連絡会事業所部会                      7月11日開催                      【参加者 37名】                      内容                      (1) 事業所間連携加算についての説明                      (2) 「成長記録」の周知                      (3) BCP策定について</p>	<p>① (1) 市障がい福祉課より、セルフプランの方に関して、コア連携事業所が、事業所間連携会議を開催していくことを学べたが、会議の進め方や、開催場所についての課題があることを把握することができた。                      (2) 「成長記録」の説明を受け、今後活用していけると良いことを周知できた。                      (3) 各事業所のBCP策定状況を確認し、策定での課題や、研修、訓練の実施状況を共有することができた。課題として、備蓄品の管理や、実際訓練を行ったことで、避難場所までのルートや、危険箇所など、実際に災害が起こった時の対応にいろんなリスクが伴うことが分かった。</p>	<p>終了・継続・変更 (※)</p> <p>終了 ・ 継続 → 同じ                      変更</p>	<p>①来年度も事業所部会を年3回開催し、情報共有や、意見交換、事例検討会などを行っていくことで、切れ目のない支援に繋げていくことや、事業所だけでは解決できない困りごとなどを話し合い、サービスの質の向上や、職員のスキルアップに繋げていく必要がある。</p>

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
☆続き	☆続き	P. 34 (5) P. 42 (1) P57 (1) P58 (2) (3) P59 (6)	(4) あさひ学園、 児童発達支援セン ター、相談支援事業 所との連携について (5) 事業所の困り ごと、課題について	(4) あさひ学園、児童 発達支援センター、相談 支援事業所との連携状況 を確認することができ た。 (5) 学校への送迎で、 より連携が取れるよう 小・中学校と保護者連絡 サービスアプリ【tetoru (テトル)】を事業所で も共有できると、スムー ズな送迎ができるという 共通希望を把握し、今後 の働きかけに繋げていく こととした。		(5) 小・中学校と保護者 連絡サービスアプリ 【tetoru (テトル)】に ついては、事業所との共 有は、システムの契約上 できない状況。 (事業所など学校以外と の共有は、有料のシステ ムとなる)
			⑧第2回こども連絡 会事業所部会 10月22日開催 【参加者 39名】 事例検討会 テーマ「不登校児の 自己肯定感の高め 方、本人からの思い の引き出し方」	⑧インシデントプロセス 法を用いての事例検討会 を行い、質疑応答を通し て、参加者が新たな気づ きや、実践できることを 得た。		⑧今後も、事例検討会を 行っていく、サービス事 業者等の質の向上に繋げ ていく。

令和6年度 こども連絡会 第4次障がい者計画等進捗状況 令和6年9月～令和7年2月 (ページ数は第4次障がい者計画書中の記載箇所)

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
			◎第3回こども連絡会事業所部会 1月23日開催 【参加者 45名】 職員研修 『～個別支援計画5領域の理解とこどものニーズを知るためには～』 講師： 日本福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科 こども専修 准教授 山崎 康一郎氏	◎自分の思いを上手く伝えることができない児童のニーズの見立てる視点を学び、それを反映した個別支援計画の作成を学ぶことができた。		◎今後も、児への適切な対応の仕方や、職員のスキルアップを目的に、勉強会や、研修会の取り組みを継続していく必要がある。

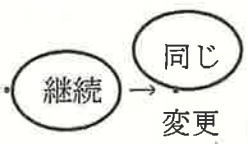
目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
	<p>◇あさひ学園、児童発達支援、放課後等デイサービスの事業所への見学会 (対象：こども連絡会事業所部会、日中活動系連絡会、就労支援連絡会、相談支援事業所連絡会の事業所)</p>		<p>あさひ学園、児童発達支援、放課後等デイサービスの事業所への見学会 10月7日～10月25日 (19日間) 開催 見学受け入れ事業所21事業所の申し込み</p>	<p>見学して良かったという意見では、「事業所の環境整備に関する気づきが多く得られた」、「児童だけでなく、親子で関われる行事などがあり、保護者のメンタルケアや、家族支援の大切さなどを学ぶことができた」などの意見があった。一方で、受け入れ側としては、「締切を過ぎてからの申し込み」や、「受け入れ可能時間以外の時間を指定された」など、見学対応についての意見があった。</p>	<p>終了</p> <p>継続 → 同じ → 変更</p>	<p>来年度は、卒業後の進路の参考に就労支援事業所で見学会を行っていく。 見学会開催に当たっての課題点を検討し、継続していく。 各連絡会の事業所見学会が一巡してから、再来年度に向けての検討を行っていく。</p>

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
☆続き	◇療育支援事業の活用	P. 34 (5) P. 42 (1) P57 (1) P58 (2) (3) P59 (6)	<p>①「小牧市の切れ目のない支援について関係機関の役割を知る(乳幼児期編)」 5月21日開催 【参加者 38名】</p> <p>②「支援の必要なお子さんの就学についての保護者向け説明会」 7月10日開催 【参加者 25名】</p>	<p>①あさひ学園、保健センター、子育て包括支援センター、幼児教育・保育課、学校教育課がどのように親子を支援しているのか、具体的に知ることができた。また、事業所として、各機関とどのように連携をとっているのか、どの段階でどことつながればよいかを考えていきたいなどの感想があり、切れ目のない支援についての意識を高める学びとなった。</p>	<p>終了</p> <p>継続 → 同じ変更</p>	<p>療育支援事業所を活用して、研修や勉強会を行ったことで、関係機関の役割を知ることができ、情報共有を行うことができた。また、保護者が学べる機会にもなった。医療的ケアが必要な方や、ご家族への対応では、保護者同士のつながりもできた。来年度も療育支援を活用し、課題に応じて、企画を変えていき、研修や、勉強会、関係機関や保護者が繋がる場を設けていく。</p>

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
			<p>◎「医療的ケアが必要な方や、ご家族への対応」～支援者同士の社会資源共有と関係機関連携～ 12月11日 【参加者 30名】</p>	<p>◎「早い段階から学校と関わっておこうと感じた」や、「先輩保護者からの経験を生で聞くことができ、就学後のイメージがついた」などの声があった。グループワークは保護者同士の交流の場となった。 ◎医師がいない環境での看護師の孤独感や、書面だけの指示書で現場の対応をしていかなければいけない苦悩などがわかった。 看護師負担軽減を含め、事業所の対応として、緊急対応の共有や、マニュアル作成を行っていること、個別対応で支援を行っていることなどの情報共有ができた。</p>		

(※) 次年度も同じ内容で継続、または目的を変えず方法を変えるという意味で変更

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
<p>①医療機関、行政機関、保育・教育機関、福祉サービス事業所等が連携し、医療的ケア児の支援体制の強化</p> <p>②医療的ケア児等に関する情報を集約し、保健・医療・福祉・教育・保育などの必要な関係機関と連携し、医療的ケア等とその保護者同士がお互いに情報共有し合えるよう、当事者間のつながりを推進</p>	<p>◇医療的ケア児等ネットワーク部会にて情報共有・意見交換会</p>	<p>P. 43 (2)</p>	<p>④第1回医療的ケア児等ネットワーク部会 6月20日開催 【参加者 19名】</p> <p>⑤第2回医療的ケア児等ネットワーク部会 10月17日開催 【参加者 20名】</p> <p>⑥第3回医療的ケア児等ネットワーク部会 2月27日開催 【参加者 17名】</p>	<p>④小牧市における医療的ケア児の保育園・小学校受入体制について、支援者同士の社会資源共有について、話し合いができています。</p> <p>⑤部会に医師の参加を依頼し、3名から快諾の承認を得ることができた。</p> <p>⑥なかよし訪問でのアンケート結果より、困りごとや要望についての活発な意見交換が行えた。</p>	<p>終了・継続・変更 (※)</p> <p>終了 ・ 継続 → 同じ変更</p>	<p>関係機関との情報共有・意見交換を行うことで、医療的ケア児の支援体制の強化に繋がっていくことができる。</p>

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
③保険・医療・福祉・教育・保育などの関係機関に医療的ケア児等コーディネーター養成研修受講者を配置  ④地域における医療的ケア児等の支援体制構築のための課題・取組等について検討 ☆	◇なかよし訪問実施		なかよし訪問の実施 【6月 1名】 【7月 2名】 【8月 4名】(新規2名を含む) 【9月 1名】 【10月 4名】 【11月 1名】 【12月 0名】 【1月 1名】 【2月 2名】	これまで連絡を取ることができなかった家庭へも、小牧特別支援学校の訪問学級を通じアプローチすることができた。新規の医療的ケア児への訪問は、保健センターと小牧市社会福祉協議会の医療的ケア児等コーディネーターが行っている。事業所へのつなぎで関わって以来の児童に会うことができ、近況を知ることができた。	終了 	セルフプランで福祉サービスを利用している方も多く、なかよし訪問を通して定期的に困り事を把握できるようにしていく。

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
<p>☆続き</p> <p>⑤医療的ケアを実施できる人材と医療的ケア児等を受け入れる事業所の確保</p>	<p>◇医療的ケア児等やその保護者同士の集まりを開催</p>	<p>P. 43 (2)</p>	<p>医療的ケア児の家族のつどい</p> <p>④5月13日開催 【参加者 保護者 6名 関係者 9名】</p> <p>⑤12月6日開催 【参加者 保護者 4名 児童2名 関係者 11名】</p>	<p>④医療的ケア児の家族と児、支援者がつどい、「学校の選び方」をテーマに、経験者の話を聞く等、交流が実現できた。</p> <p>⑤「事業所ってどんなところ？」をテーマに、3事業所を紹介。事業所での取り組みの意図や、効果などのエビデンスについて聞くことができた。また、座談会において、母の思いを直に聞き、家族支援の大切さを再認識することができた。</p>	<p>終了</p> <p>継続</p> <p>同じ ・ 変更</p>	<p>家族間交流を希望する声がある。</p>
	<p>◇関係機関それぞれに1名以上の医療的ケア児等コーディネーター養成研修受講者を配置</p>		<p>小牧市社会福祉協議会より1名受講し、医療的ケア児等コーディネーターを取得(9月)</p>	<p>0歳を含む、できる限り早期の療育環境で、集団に身を置くことが大切であり、4歳児からの療育・保育では遅い等、知識を得ることにより、意識向上に繋がった。</p> <p>現在、保健センター、小牧市社会福祉協議会に医療的ケア児等コーディネーターを配置しているが、他の機関には配置できていない。</p>	<p>終了</p> <p>継続</p> <p>同じ ・ 変更</p>	<p>今後は受講者がいない関係機関に医療的ケア児等コーディネーターを受講を促すことで、支援体制の強化につながる。</p>

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
	◇サービス事業者へ喀痰吸引等研修に係るアンケートを実施		10月に市内訪問系サービス事業所にアンケートを実施	12事業所の回答。喀痰吸引研修の受講者数は確認できたが、実際提供している事業所は少なかった。 「連携の取れる訪問看護事業所があると良い」という考えがあることが分かった。	終了・継続 → 同じ・変更	サービス事業者の喀痰吸引等研修受講者数や受講するにあたり何が障害になるのかを確認ができた。 また、現在受講している方の稼働を確認していく。

(※) 次年度も同じ内容で継続、または目的を変えず方法を変える(変更) という意味で変更

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
①障がいのある人の状況に応じた日中活動の場を確保	◇日中活動系連絡会・就労支援連絡会合同連絡会 年3回(6月, 10月, 2月)	P. 52 (2)	④第1回日中活動系連絡会・就労支援連絡会合同連絡会 6月10日開催 日中活動系連絡会 【参加者 16名】 就労連絡会 【参加者 22名】 内容 (1)近況報告、情報共有 【グループワーク】 (2)BCP策定について (3)事業所の課題、困り事について	④(1)各事業所の近況を知り、情報共有できた。 (2)(3)「各事業所、BCPマニュアルの策定は終わっているが、研修や訓練方法が分からない」「必要の方に相談員を付けられない」「4月の報酬改定で改定内容が分からず、気軽に相談できる事業所間の繋がりが欲しいと感じた」「就労選択支援の内容が分からず研修があると良い」などの意見があり、今後、連絡会で取り組んでいく課題の抽出ができた。	終了・継続・変更(※) 終了 → 継続 → 同じ・変更	来年度も就労支援連絡会・日中活動系連絡会の合同連絡会を開催し、意見交換や事例検討などを行うことで、事業所のサービスの質と量を確保する。 また、地域課題となり得る課題を抽出し、解決に向けた議論を行うことで、障がいのある方が暮らしやすい環境を整えられるよう合同連絡会を継続する。

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
	◇事例検討会		<p>⑧第2回日中活動系連絡会・就労連絡会合同連絡会 10月28日 日中活動系連絡会 【参加者21名】 就労支援連絡会 【参加者28名】</p> <p>⑨第3回日中活動系・就労支援連絡会合同連絡会 1月28日開催 日中活動系連絡会 【参加者20名】 就労支援連絡会 【参加者25名】</p>	<p>事業所で対応に困っている事例に対して、グループワークで対応方法など検討し共有した。 応用行動分析学を用いた支援方法の講義を実施し、問題行動に対するの対処方法などを理論的に理解することができた。</p> <p>⑨グループワークを行い、困りごと等を話し合い、事業所間の情報共有ができた。 “就労選択支援”については、「ペイフォワード小牧」より、“就労選択支援”を行う場合の準備や対象研修などの情報を説明していただいた。</p>		

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠				
①市民のスポーツ大会・イベント等に障がいのある人の参加を促進する	◇愛知県内、小牧市内のスポーツ大会や、文化芸術活動の開催案内の周知協力(小牧市障がい者(児)スポーツレクリエーションや、小牧市障がい者作品展「こまきアール・ブリュット展」等のイベント)	P. 56 (3)	「とよめサロン」の作品展への出展募集案内	いわさき授産所、ふれあい障がい者デイサービスが作品展開催。 事業所で作った作品や活動の様子の写真を飾る事で、市民の方へ知ってもらう場となった。	終了・継続・変更 (※) 終了・継続 → 同じ・変更	来年度もとよめサロンを活用して、地域の事業所を市民に知ってもらう機会として、作品展を開催する。				
②障がいのある人の創作活動や展示・発表の場の充実を図り、障がいのある人の文化芸術活動を支援		P. 66 (3) (4) (5)								
③障害のある人の余暇活動や地域活動の支援を行うボランティアの育成							あいちアール・ブリュット展の開催案内を各事業所へ案内	あいちアール・ブリュット展の周知に繋げることができた。	終了・継続・変更 (※) 終了・継続 → 同じ・変更	障がいのある人の創作活動や展示・発表の場の充実のため継続する。
④障がい者施設による物販の機会の充実										
⑤余暇活動の場の充実										
☆										

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
	<p>◇ボランティアセンターが小牧市障がい者(児)スポーツ・レクリエーションに例年ボランティアとして参加される個人やグループ、企業に協力を促す。また、市広報でボランティアを募集する</p>		<p>令和6年度 小牧市障がい者(児)スポーツ・レクリエーション 11月10日(日)開催 参加者：146名 ボランティア79名、保護者・施設職員89名 計：314名</p>	<p>ボランティアセンター主催で開催。ボランティア団体や障がい者施設へ協力を仰ぐことで、多くの方に参加いただき、障がいのある方の余暇活動の場を提供できた。</p>	<p>終了・継続・変更 (※)</p> <p>終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更</p>	<p>小牧市障がい者(児)スポーツ・レクリエーションを通して障がい者の理解を促進する。また、障がいのある人の参加を促進する。</p>

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
☆続き	◇ボランティアセンターが障がい者ガイドボランティア養成講座を隔年開催	P. 38 P. 46 P. 47	<p>障害者ガイドボランティア養成講座開催日 11月21日・26日 受講人数12名</p> <p>手話ボランティア養成講座 昼の部：11名受講 夜の部：13名受講</p> <p>要約筆記ボランティア養成講座 2名受講</p> <p>音訳（朗読）ボランティア養成講座 8名受講</p> <p>点訳ボランティア養成講座 6名受講</p>	<p>ボランティア養成講座は「ガイドヘルプ友の会」の協力で、視覚障がい者と車いす利用者の外出介助について介助方法などを学び、受講後は数名の方が入会された。</p> <p>多くの市民の方がボランティアに興味を持って受講したことは地域のボランティア活動を支える上でも、とても前向きな材料となった。</p>	<p>終了</p> <p>継続 → 同じ・変更</p>	<p>来年度は障がい者ガイドボランティア養成講座は実施しない。</p> <p>ボランティア養成講座の“手話・要約筆記・音訳（朗読）・点訳”は実施予定。多くの市民の方にボランティア活動へ参加いただくため周知活動を行っていく。</p>

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
☆続き	<p>◇にじカフェ・にじいろマルシェ開催 年1回 ・障がい者施設による物品の販売</p> <p>◇小牧市内で行うマルシェを周知し、出展を促す</p>	<p>P. 38 P. 46 P. 47</p>	<p>④にじカフェ・にじいろマルシェ開催に向けての打ち合わせ 2ヶ月に1回開催 【担当者 7名】 保護者向け事業所紹介&amp;個別相談会にて『にじカフェ』開催</p> <p>⑤にじカフェ・にじいろマルシェ開催 開催日:11月2日(土) 出店:5事業所 場所:にぎわい広場(小牧駅西口広場) 来場者数:約80名</p>	<p>④保護者向け事業所紹介会場内に、にじカフェブースを設けたことにより、保護者同士の交流の場となり、事業所スタッフや相談支援専門員とは進路先の相談が出来る場となった。</p> <p>⑤あいにくの雨で来場者は去年と比べて少なかったが、初めての出店事業所もあり、就労施設の物販の場の提供と周知の場となった。また、にじカフェでは、約20名の方が飲み物を飲みながら、ワークショップに参加され、障がいのある人もない人も同じ空間でマグネット創作を楽しんでいただけた。</p>	<p>終了</p> <p>○継続 → 同じ ○変更</p>	<p>にじカフェを開催し、障がいのある人もない人も気軽に参加できる余暇の場を確保する。</p> <p>また、にじいろマルシェを開催し、障がい就労施設による物販の機会の充実を図る。</p> <p>来年度はにじカフェ・にじいろマルシェの開催場所や実施回数などを検討していく。</p> <p>とよめ活性化プロジェクトでのマルシェは終了。</p>

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
			◎「とよめサロン利用 活性化プロジェクト」 への協力 ・物販 第1回 7月30日 第2回 11月26日	◎参加事業者からは、 事業所間の横のつな がりが持てて良かつと の声がある一方、「とよ めサロン」では集客が 厳しいとの声もある。		

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
☆続き	◇サンデーボランティア主催のボッチャの周知協力	P. 38 P. 46 P. 47	サンデーボランティア主催 身体障害者福祉協会協力 「ボッチャ教室」参加者 4月：20名 5月：16名 6月：12名 7月：21名 8月：中止 9月：33名 10月：24名 11月：38名 12月：23名 01月：22名 02月：24名 03月：	継続して来られる方や、参加者からの紹介、親子での参加やヘルパーと一緒に参加される方、個人ボランティアの継続的な参加など、様々な方に参加いただき、少しずつ周知されてきた。 学生ボランティア「ここボラ」が審判として参加。 利用者同士で誘い合って自分達で参加できれば、余暇の場としてより広がっていくのではないかとの意見も出ている。 【社協だより12月号】に、障がい者週間の啓発として、ボッチャ教室を紹介した。	終了 継続 → 同じ 変更	来年度も小牧市内の障がいのある方が、気軽に参加できる余暇の場の充実のため、ボッチャ教室の周知協力を行う。

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
<p>①障がい児と保護者への総合的な支援</p> <p>②卒業後の多様な進路の確保</p>	<p>◇「保護者及び教員向け進路先説明会」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活介護事業所、就労支援事業所等の紹介</li> <li>・卒業後の進路相談</li> </ul>	<p>P. 42</p>	<p>保護者及び教員向け進路先説明会 8月23日開催 【参加保護者 59名】 【参加教員・事業所関係者 15名】 出展ブース 【参加法人 20法人】</p>	<p>参加対象者を特別支援学校に通う全校生徒と教員を対象とした事、特別支援級に通う児童の保護者と教員にも開催を周知した事で大幅な参加者増となった。保護者や教員からの参加後アンケートより、「制度の理解が出来た」「進路先の情報が出て心が軽くなった」「担当者と直接話せるのが良かった」「来年も開催して欲しい」との意見があった。一方で参加者が増えた事で「ブースを回る時間が無かった」「相手の声が聞こえなかった」などの意見もあった。</p>	<p>終了・継続・変更 (※)</p> <p>終了・継続 → 同じ・変更</p>	<p>来年度は連絡会事業所から意見収集し、開催方法などを検討する。</p>

(※) 次年度も同じ内容で継続、または目的を変えず方法を変えるという意味で変更

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
<p>①障がいのある人の状況に応じた日中活動の場の確保</p> <p>②障がいのある人の余暇活動や地域活動の支援を行うボランティアの育成</p> <p>③余暇活動の場の充実</p> <p>④障がい者施設による物販の機会の充実</p> <p>⑤市民のスポーツ大会・イベント等に障害のある人の参加を促進</p> <p>⑥障がい者スポーツ・レクリエーションのボランティアの確保・育成の促進</p>	<p>◇就労支援連絡会・日中活動系連絡会合同連絡会</p>	<p>P. 66 (3) (4) (5)</p>	<p>④第1回就労支援・日中活動系連絡会合同連絡会 6月10日開催 【参加者 22名】 日中活動系連絡会 【参加者 16名】 内容 (1)近況報告、情報共有 【グループワーク】 (2)BCP策定について (3)事業所の課題、困り事について</p>	<p>④(1)各事業所の近況を知り、情報共有できた。 (2)(3)「各事業所、BCPマニュアルの策定は終わっているが、研修や訓練方法が分からない」 「必要な方に相談員を付けられない」「4月の報酬改定で改定内容が分からず、気軽に相談できる事業所間の繋がりが欲しいと感じた」「就労選択支援の内容が分からず研修があると良い」などの意見があり、今後、連絡会で取り組んでいく課題の抽出ができた。</p>	<p>終了・継続・変更(※)</p> <p>終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更</p>	<p>来年度も就労支援連絡会・日中活動系連絡会の合同連絡会を開催し、意見交換や事例検討などを行うことで、事業所のサービスの質と量を確保する。 また、地域課題となり得る課題を抽出し、解決に向けた議論を行うことで、障がいのある方が暮らしやすい環境を整えられるよう合同連絡会を継続する。</p>

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
⑦障がいのある人の創作活動や展示・発表の場の充実  ☆	◇事例検討会		⑨第2回日中活動系連絡会・就労連絡会合同連絡会 10月28日 日中活動系連絡会 【参加者21名】 就労支援連絡会 【参加者28名】	⑨事業所で対応に困っている事例に対して、グループワークを行い、対応方法などを検討し共有することができた。 応用行動分析学を用いた支援方法の講義を実施し、問題行動に対しての対処方法などを理論的に理解することができた。		
			◎第3回日中活動系・就労支援連絡会合同連絡会 1月28日開催 日中活動系連絡会 【参加者20名】 就労支援連絡会 【参加者25名】	◎グループワークを行い、困りごと等を話し合い、事業所間の情報共有ができた。 “就労選択支援”については、「ペイフォワード小牧」より、“就労選択支援”を行う場合の準備や対象研修などの情報を説明していただいた。		

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
☆続き	◇ボランティアセンターが障がい者ガイドボランティア養成講座を隔年開催	P. 66 (3) (4) (5)	<p>障害者ガイドボランティア養成講座開催日 11月21日・26日 受講人数12名</p> <p>手話ボランティア養成講座 昼の部：11名受講 夜の部：13名受講</p> <p>要約筆記ボランティア養成講座 2名受講</p> <p>音訳（朗読）ボランティア養成講座 8名受講</p> <p>点訳ボランティア養成講座 6名受講</p>	<p>ボランティア養成講座は「ガイドヘルプ友の会」の協力で、視覚障がい者と車いす利用者の外出介助について介助方法などを学び、受講後は数名の方が入会された。</p> <p>多くの市民の方がボランティアに興味を持って受講したことは地域のボランティア活動を支える上でも、とても前向きな材料となった。</p>	<p>終了・継続・変更 (※)</p> <p>終了・継続 → 同じ変更</p>	<p>来年度は障がい者ガイドボランティア養成講座は実施しない。</p> <p>ボランティア養成講座の“手話・要約筆記・音訳（朗読）・点訳”は実施予定。多くの市民の方にボランティア活動へ参加いただくため周知活動を行っていく。</p>

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
	◇サンデーボランティア主催のボッチャの周知協力		サンデーボランティア主催 身体障害者福祉協会協力 「ボッチャ教室」 参加者 04月：20名 05月：16名 06月：12名 07月：21名 08月：中止 09月：33名 10月：24名 11月：38名 12月：23名 01月：22名 02月：24名 03月：	継続して来られる方や、参加者からの紹介、親子での参加やヘルパーと一緒に参加される方、個人ボランティアの継続的な参加など、様々な方に参加いただき、少しずつ周知されてきた。 学生ボランティア「ここボラ」が審判として参加。 利用者同士で誘い合って自分達で参加できれば、余暇の場としてより広がっていくのではないかとの意見も出ている。 【社協だより12月号】に、障がい者週間の啓発として、ボッチャ教室を紹介した。	終了 ・継続 → ・同じ ・変更	来年度も小牧市内の障がいのある方が、気軽に参加できる余暇の場の充実のため、ボッチャ教室の周知協力を行う。

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
☆続き	<p>◇にじカフェ・にじいろマルシェ開催 年1回 ・障がい者施設による物品の販売</p> <p>◇小牧市内で行うマルシェを周知し、出展を促す</p>	P. 66 (3) (4) (5)	<p>④にじカフェ・にじいろマルシェ開催に向けての打ち合わせ 2ヶ月に1回開催 【担当者 7名】 保護者向け事業所紹介&amp;個別相談会にて『にじカフェ』開催</p> <p>⑤にじカフェ・にじいろマルシェ開催 開催日：11月2日(土) 出店：5事業所 場所：にぎわい広場(小牧駅西口広場) 来場者数：約80名</p>	<p>④保護者向け事業所紹介会場内に、にじカフェブースを設けたことにより、保護者同士の交流の場となり、事業所スタッフや相談支援専門員とは進路先の相談が出来る場となった。</p> <p>⑤あいにくの雨で来場者は去年と比べて少なかったが、初めての出店事業所もあり、事業所の物販と周知の場となった。また、にじカフェでは、約20名の方がワークショップに参加され、障がいのある人もない人も同じ空間でマグネット創作を楽しんでいただけた。</p>	<p>終了</p> <p>継続 → 同じ変更</p>	<p>にじカフェを開催し、障がいのある人もない人も気軽に参加できる余暇の場を確保する。 また、にじいろマルシェを開催し、障がい就労施設による物販の機会の充実を図る。 来年度はにじカフェ・にじいろマルシェの開催場所や実施回数などを検討していく。</p> <p>とよめ活性化プロジェクトでのマルシェは終了。</p>

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
			◎「とよめサロン 利用活性化プロ ジェクト」への協 力 ・物販 第1回 7月30日 第2回 11月26日	◎参加事業者から は、事業所間の横の つながりが持てて良 かつとの声がある一 方、「とよめサロ ン」では集客が厳し いとの声もある。		
	◇愛知県内、小牧 市内のスポーツ大 会や、文化芸術活 動の開催案内の周 知協力（小牧市障 がい者（児）ス ポーツレクリエー ションや、小牧市 障がい者作品展 「こまきアール・ ブリュット展」等 のイベント）		「とよめサロン」 の作品展への出展 募集案内	いわざき授産所、 ふれあい障がい者デ イサービスが作品展 開催。 事業所で作った作 品や活動の様子の写真 を飾る事で、市民 の方へ知ってもらう 場となった。	終了 ・ 継続 ・ 変更 継続	来年度もとよめサロンを 活用して、地域の事業所を 市民に知ってもらう機会と して、作品展を開催する。
			あいちアール・ブ リュット展の開催 案内を各事業所へ 案内	あいちアール・ブ リュット展の周知に 繋げることができ た。	終了 ・ 継続 ・ 変更 継続	障がいのある人の創作活 動や展示・発表の場の充実 のため継続する。

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
☆続き	◇ボランティアセンターが小牧市障がい者(児)スポーツ・レクリエーションに例年ボランティアとして参加される個人やグループ、企業に協力を促す。また、市広報でボランティアを募集する	P. 66 (3) (4) (5)	令和6年度 小牧市障がい者(児)スポーツ・レクリエーション 11月10日(日)開催 参加者：146名 ボランティア79名、保護者・施設職員89名 計：314名	ボランティアセンター主催で開催。ボランティア団体や障がい者施設へ協力を仰ぐことで、多くの方に参加いただき、障がいのある方の余暇活動の場を提供できた。	終了・継続・変更(※) 終了・継続 → 同じ 変更	小牧市障がい者(児)スポーツ・レクリエーションを通して障がい者に対する理解を促進する。また、障がいのある人の参加を促進する。
①障がいのある人の雇用促進に関する広報・啓発活動に取り組み、企業等の理解・協力を促進	◇公共職業安定所等と協力し、障害者雇用支援月間にポスター配布、掲示依頼 ・一般企業・就労継続支援事業所・行政機関等	P. 55 (1) (2) P. 56 (2) (3)	小牧市内の一般企業(150名以上の雇用企業50社)、就労継続支援A型事業所、就労継続支援B型事業所、就労移行支援事業所、委託相談支援事業所へ、障害者雇用支援月間ポスターを配布	今年度は小牧市内の一般企業へ障害者雇用支援月間ポスターを配布し、障がい者雇用の理解促進ができた。	終了・継続・変更(※) 終了・継続 → 同じ 変更	障害者雇用について、より一般企業の理解や協力が得られるポスターの配布方法等を検討していく。

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
②就労系サービスの量・質の確保	◇就労連絡会・日中活動系連絡会合同連絡会	P. 55 (1)	④第1回就労支援・日中活動系連絡会合同連絡会	(1)各事業所の近況を知り、情報共有できた。	終了・継続・変更(※) 終了 → 継続 → 同じ → 変更	来年度も就労支援連絡会・日中活動系連絡会の合同連絡会を開催し、意見交換や事例検討などを行うことで、事業所のサービスの質と量を確保する。また、地域課題となり得る課題を抽出し、解決に向けた議論を行うことで、障がいのある方が暮らしやすい環境を整えられるよう合同連絡会を継続する。
③企業、働きたいと思っている障がいのある人への情報発信	年3回(6月、10月、2月) ・情報共有、意見交換会 ・一般企業に障害者雇用支援月間ポスターを配布するための手段方法について	P. 56 (2) (3)	6月10日開催 【参加者 22名】 日中活動系連絡会 【参加者 16名】 内容 (1)近況報告、情報共有 【グループワーク】 (2)BCP策定について (3)事業所の課題、困り事について	(2)(3)「各事業所、BCPマニュアルの策定は終わっているが、研修や訓練方法が分からない」 「必要な方に相談員を付けられない」「4月の報酬改定で改定内容が分からず、気軽に相談できる事業所間の繋がりが欲しいと感じた」「就労選択支援の内容が分からず研修があると良い」などの意見があり、今後、連絡会で取り組んでいく課題の抽出ができた。		

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
			<p>㊤第2回日中活動系連絡会・就労連絡会合同連絡会 10月28日 日中活動系連絡会 【参加者21名】 就労支援連絡会 【参加者28名】</p>	<p>事業所で対応に困っている事例に対して、グループワークを行い、対応方法などを検討し共有することができた。 応用行動分析学を用いた支援方法の講義を実施し、問題行動に対しての対処方法などを理論的に理解することができた。</p>		
			<p>㊤第3回日中活動系・就労支援連絡会合同連絡会 1月28日開催 日中活動系連絡会 【参加者20名】 就労支援連絡会 【参加者25名】</p>	<p>㊤グループワークを行い、困りごと等を話し合い、事業所間の情報共有ができた。 “就労選択支援”については、「ペイフォワード小牧」より、“就労選択支援”を行う場合の準備や対象研修などの情報を説明していただいた。</p>		

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
①障がい児と保護者への総合的な支援	◇「保護者及び教員向け進路先説明会」の開催	P. 55 (1)	保護者及び教員向け進路先説明会	参加対象者を特別支援学校に通う全校生徒と教員を対象とした事、特別支援級に通う児童の保護者と教員にも開催を周知した事で大幅な参加者増となった。 保護者や教員からの参加後アンケートより、「制度の理解が出来た」「進路先の情報が増えて心が軽くなった」「担当者と直接話せるのが良かった」「来年も開催して欲しい」との意見があった。 一方で参加者が増えた事で「ブースを回る時間が無かった」「相手の声が聞こえなかった」などの意見もあった。	終了・継続・変更 → 同じ・変更	来年度は連絡会事業所から意見収集し、開催方法などを検討する。
②卒業後の多様な進路の確保	・生活介護事業所、就労支援事業所等の紹介	P. 56 (2)	【参加保護者59名】			
	・卒業後の進路相談	(3)	【参加教員・事業所関係者15名】 出展ブース 【参加法人20法人】			

(※) 次年度も同じ内容で継続、または目的を変えず方法を変えるという意味で変更

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
<p>①緊急時の受け入れ体制の構築及び体験の場の確保を図り、障がい種別等に関わらず、いつでも受け入れることが出来るよう体制の強化</p>	<p>◇グループホームの空き部屋を活用することを検討する</p>	<p>P. 40 P. 41</p>	<p>共同生活援助意見交換会 2月25日開催 参加者14名</p>	<p>緊急時の受入について、「着の身着のままの状態だったので、事業所が衣服や日用品を用意(購入費の立替)しなければならなかった」、「今いる利用者との関係性を考慮すると、受け入れが難しい」、「人員不足」など、受け入れ側としての困りごとがあることがわかった。 ここでの意見を基に“情報シート(参考資料1)”の内容を市障がい福祉課が再考する。</p> <p>また、情報交換を行い、「人員不足のため、研修を受講させられない」、「権利侵害にならないような生活上のルールの決め方が難しい」等の困りごとを把握することができた。</p>	<p>終了・継続・変更 (※)</p> <p>終了・継続 → 同じ変更</p>	<p>今後も、共同生活援助事業所の意見交換会を行い、横の繋がりを持ち、困りごとを相談し合うことで、より良い支援に繋げていける場になると良い。</p>

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
<p>①介護・福祉・保育 人材不足解消</p> <p>②障害福祉サービスの 充実</p>	<p>◇こまき福祉のお しごとフェアの開 催</p>	<p>P. 52 (2) P. 53 (5)</p>	<p>こまき福祉のお しごとフェア実行 委員会開催 実行委員【7名】 第1回：3月25日 第2回：6月7日 第3回：7月18日 第4回：11月8日 第5回：1月17日 こまき福祉のおし ごとフェア 令和7年2月23日実 施(小牧市中央図 書館イベントス ペース) 【来場者34名】 事業所13法と、 小規模保育園4園、 幼児教育・保育課 が出席。</p>	<p>サービス事業所の 職員が実行委員会と なり、企画立案、開 催の準備をおこなっ ていただいた。 小牧の情報を掲載 している「小牧つー しん」や「インスタ グラム」で情報を発 信し、当日は「こま きやま」の着ぐるみ を着てチラシ配りを 行ったことで、来場 者増に繋がった。 当初の狙いである 中途採用の30代～50 代の来場者が多く、 後日の事業所の見学 も9名が約束を取り付 けることができた。 面談結果(参考資料 2)参照。</p>	<p>終了・継続・変更(※)</p> <p>終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更</p>	<p>事業所の慢性的な人材不 足はまだまだ解消されてお らず、引き続き人材確保が 課題としてある。 ただ来年度に関しては、 こまき福祉のおしごとフェ アの開催は継続するが、開 催方法を変更する予定。</p>

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
①障がいのある人があらゆる分野に参画できる  ②障がいのある人のためのサービス一覧の作成	◇障がい者の日 (12月9日) 障がい者週間 (12月3日～12月9日) の啓発をする (社協だより等)	P. 46 (2) P. 65 (1)	【社協だより12月号】に、障がい者週間の啓発として、ポッチャ教室の紹介を行った。	障がいのある方の余暇活動として、ポッチャ教室の特集を掲載し、その中で障害者の日、障害者週間を掲載することで、啓発に繋がった。	終了・継続 → 同じ変更	今後も、市民の皆様により意識して頂けるよう、社協だより等を通して、啓発を行っていく必要がある。
	◇障がい福祉サービス事業所一覧更新 (令和6年度中に完成)		令和7年1月末2000部完成。	新規事業所の情報や、内容の修正などができ、見やすく最新の情報を掲載することができた。	終了・継続 → 同じ変更	毎年、新規事業所や、事業所の移転、閉鎖事業所などがあるため、最新の情報を掲載できるよう、更新が必要。
①サービス事業所が防災の意識を高めていく  ②福祉サービス利用時以外でも災害時に備える	◇防災マニュアルの作成を推進	P69 P70 (3)	各連絡会にBCPの作成、訓練・研修の実施状況を確認した。	サービス事業所でBCPは作成された。 訓練・研修の実施方法などを共有できた。	終了・継続 → 同じ変更	事業所から訓練・研修方法が分からないと声がある。引き続き、事業所間で共有を図り、防災意識を高めて災害時に備える。

☆

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
☆続き	◇災害時避難行動要支援者台帳への登録啓発	P69 P70 (3)	各連絡会にて災害時避難行動要支援者台帳の資料を配布。 各事業所の利用者の登録啓発。	事業所への登録啓発を行うことで、事業所の意識とご家族、ご本人への周知に繋がった。	終了・継続 → 同じ変更	今後も、各連絡会を通して、家族や、利用者へ災害時避難行動要支援者台帳への登録啓発を行っていく。
①障がいのある人が地域で自立した暮らしが送れる	◇権利擁護についての研修 ・尾張北部権利擁護支援センター主催等、権利擁護に関する研修の情報提供の協力	P. 46	「尾張北部圏域の障がい福祉を考える会」 6月23日開催 【参加者 27名】 (現地、WEB合わせて) 内小牧市障害者自立支援協議会会員事業所 【参加者 8名】	親亡き後、障がいのある方が地域で自立して生活していくためには早め早めの備えが必要であることや、意思決定支援が大切だが、それだけではなく、意思決定のための支援が必要で「その人の思いを知る・気づくことが重要」であることがよく理解できた。	終了・継続 → 同じ変更	今後も、権利擁護に関する研修会で、地域で自立した暮らしが送れるよう、事業所職員や福祉サービス利用者、その家族が学べる機会の周知に協力する。
①サービスの利用促進・情報発信 ②障がい児支援の利用促進 ☆	◇障がい福祉サービス事業所一覧の発行	P. 65 (1) P. 42 (1) P. 52 (2) P56 (3)	令和7年1月末 2000部完成。	新規事業所の情報や、内容の修正などができ、見やすく最新の情報を掲載することができた。	終了・継続 → 同じ変更	毎年、新規事業所や、事業所の移転、閉鎖事業所などがあるため、最新の情報を掲載できるよう、更新が必要。

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
☆続き	◇各事業所のガイドブックの更新・発行 (令和6年度中に完成) ・支援が必要なお子さんの為のガイドブック ・障がい者が日中通うための事業所ガイドブック ・障がい者が働く事業所ガイドブック	P. 65 (1) P. 42 (1) P. 52 (2) P56 (3)	令和7年2月末完成。 支援が必要なお子さんの為のガイドブック：300冊 障がい者が日中通うための事業所ガイドブック：100冊 障がい者が働く事業所ガイドブック：200冊	新規事業所の情報の追加や、内容の修正などができ、各事業所が、工夫をしながら特色などを含めて、見やすく最新の情報を掲載することができた。	終了 ・ 継続 → 変更 同 じ	データと冊子で、今後も最新の情報を提供できるよう、毎年更新が必要。

(※) 次年度も同じ内容で継続、または目的を変えず方法を変えるという意味で変更

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
①虐待の防止	◇小牧市障害者虐待防止センターは、養護者、障がい者福祉施設従事者及び利用者による障害者虐待についての通報・届け出・相談を受け付け、対応、障がい者虐待防止及び養護者支援に関する啓発活動等を実施	P. 47 (1) (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設従事者虐待受付【13件】 内訳：身体的虐待1件 性的虐待2件 心理的虐待8件 放棄放任的虐待6件</li> <li>養護者虐待受付【7件】 内訳：身体的虐待4件 心理的虐待4件 経済的虐待2件</li> </ul>	<p>養護者虐待に関しては、その後の対応(新たな居場所の確保等)を含めて取り組むことができています。</p> <p>啓発活動については、委託相談支援事業所とともに各地区民生委員・児童委員連絡協議会に出席し、障がい者虐待防止についての周知を行った。</p>	<p>終了</p> <p>● 継続 → ● 同じ ● 変更</p>	<p>受付件数が増えているため、今後も適切に対応していくことが必要。</p>
	◇障害者虐待防止法についての研修		<p>尾張北部権利擁護支援センター開催研修の啓発の協力</p> <p>「虐待対応研修」 ～あなたのそれ、虐待ですよ!～</p> <p>8月26日開催 【参加者 100名程度】(現地、WEB合わせて) 内、小牧市障害者自立支援協議会会員事業所 【参加者 13名】</p>	<p>会員参加者が13名のため、各事業所がどのように研修に取り組んでいるか確認を行っていく必要がある。</p>	<p>終了</p> <p>● 継続 → ● 同じ ● 変更</p>	<p>障害者虐待防止法については繰り返し受講する必要がある。</p>

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
①相談支援体制の充実 ②相談員の質の向上 ☆	◇巡回訪問(年4回)を行い、計画相談支援・障がい児相談支援給付費の加算取得状況や相談支援事業所の困り事を確認していく	P. 37 P. 38	全10事業所 延べ39回 ・いわさき授産所 5月、7月、11月、2月 ・サンビレッジ障害者支援センター 4月、7月、11月、2月 ・サンフレンド障害者生活支援センター 4月、7月、10月、1月 ・相談支援室こぐまさん 4月、5月、6月、8月、11月、2月 ・相談支援事業所アザレアフォルテ 4月、6月、7月、11月、2月 ・相談支援事業所カフェしっぷ 4月、7月、11月 ・相談支援事業ハートランド小牧の杜 4月、8月、11月、1月 ・地域活動支援センター本庄プラザ 4月、8月、11月、2月	ケースの相談や、相談支援専門員と基幹相談支援センターと一緒に支援しているケースの情報交換などを行った。 相談支援事業所連絡会での検討が望ましい内容などを聞くことができた。 困難ケースでは、ケース会議に基幹相談支援センターが同席するなど一緒に対応することができた。	終了・継続・変更(※) 終了・継続 → 同じ変更	巡回訪問が必要と言われた場合は、継続することで相談支援専門員の困り事をいち早く把握できる。

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・メロディー相談支援事業所</li> <li>5月、7月、11月、2月</li> <li>・相談支援事業所いろは</li> <li>2月</li> </ul>			

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
	◇相談支援専門員 初任者研修受講者 フォローアップ研 修		10月23日開催 【受講者 6名】 (講師2名 基幹相談支援 センタ2名で実施) 10月31日開催 【受講者 4名】 (基幹相談支援センタ2名 で実施) 11月19日開催 【受講者 12名】 (相談支援事業所連絡会に てグループワークを行っ た)	受講者からは、「小 牧市内の社会資源を知 ることができた」「先 輩相談員より、自分の 見立てとは違った視点 でサービス等利用計画 についてアドバイスを 受けることができた」 などの意見があった。	終了・継続・変更(※) 終了・継続 → 同じ 変更	小牧市内の相談支援専 門員が増え、実稼働で きるよう、相談支援専門員 初任者研修受講者のフォ ローアップ研修を今後も 丁寧に行っていく必要が ある。 また初任者研修受講者 が、地域の相談支援事業 所とのつながりを持ち、 課題整理ができるよう今 後も継続していく。
※続き	◇相談支援専門員 現任研修受講者 フォローアップ研 修	P. 37 P. 38	8月20日開催 【受講者 1名】 (講師1名、基幹相談支援 センター2名で実施)	講師、基幹相談支援 センターともに、事例 に対し取り組むと良い 事について提案するこ とができた。	終了・継続・変更(※) 終了・継続 → 同じ 変更	フォローアップ研修を 行っていくことで相談支 援専門員を増やしてい く。

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
	◇基幹相談支援センター進捗会議 ・基幹相談支援センターの業務の外部チェック ・困難事例の対応、相談支援事業所への助言等		基幹相談支援センター進捗会議 第1回 5月14日開催 参加者5名  第2回 7月8日開催 参加者6名  第3回 11月8日開催 参加者6名  第4回 2月14日開催 参加者6名	地域アドバイザー、主任相談支援専門員及び相談支援連絡会代表から、基幹相談支援センターの各種事業や相談対応について意見をいただき、今後の進捗の参考にできている。	終了・継続 → 同じ変更	基幹相談支援センターとして経験を積んできていることから、来年度は会議回数を4回から3回に減らして実施していく。
	◇事例検討会 ・困難ケース事例検討 ・地域移行・地域定着事例検討		地域移行・地域定着事例検討会 7月23日開催 講師：アザレア福祉会理事長小木曾真知子氏 【参加者 15名】	講義を交えながら実際の事例を学ぶことができた。	終了・継続 → 同じ変更	困難ケースなどを事例検討を用いて、相談員のスキルアップや、一人で抱え込まない体制にしていく必要がある。
①精神障がい者等の地域移行	◇尾張北部医療圏域精神障害者地域移行支援コア機関チーム会議に出席	P. 61 (2)	愛知県尾張北部医療圏域精神障害者地域移行支援コア機関チーム会議 12月25日開催 【参加者 22名】	病院の入院状況や他市町の状況を確認することができた。	終了・継続 → 同じ変更	今後も病院の状況を確認すると共に、他市町の状況を確認し地域移行を進めていく必要がある。

(※) 次年度も同じ内容で継続、または目的を変えず方法を変えるという意味で変更